

# コヴェントリーII サイクル劇(X)

橋 本 侃

## 第十二演目 ヨセフの帰宅

(1)

ヨセフ おおい、女主人、戸を開けろ、戸を！

家にいるのか——何か言ったらどうだ。

スザンナ どなたですか？ そんなに大声を出さなくてもいいでしょうに。

ご用向きをおっしゃってください。

ヨセフ 戸を開けろ、と言ってるのだ——

こっちは内へ入ることばかり考えているというのに。

マリア あの声はわたしの配偶者ですわ。

戸を開けてあげて——思いどおりにしてあげるのよ。

(2)

お帰りなさい、わたしの愛しい夫。

遠い国でどうなさっていましたか？

ヨセフ もちろん、生計のために働いていたよ、

お前とわしのために、懸命に。

マリア 戻っていらっしやたのね、あなた。本当にありがたいことです。

大きな慰めです、こうしてあなたのお顔を見られるのは。

ヨセフ 妻よ、お前の顔が眩しくて見えない——実に驚きだ、

太陽が一番輝く時の光を浴びてるわけでもないのに。

(3)

マリア 畏れながら言いますとね、あなた、主の慈しみが増したからです。

確かに、わたしをご覧になる人たちは

徳へと大きく駆り立てられるのです。

ご主人さま、ありがたいことです——このような神の恵みと、さらに多くの恵みのおかげです。

(4)

ヨセフ おとなしい乙女よ、どうしていたかな、

わしが国を出ている間は。

マリア 無事でしたよ、旦那様、ご心配なく、

神のご意向どおりの恵みのおかげで。

ヨセフ それが不吉に聞こえるのが気になる……。

お前の腹があまりにも大きくなりすぎている――

裏切られたのではないかとひどく気になる……。

そうだ、お前は誰か他の男を引き入れたのだ、

わしがここからいなくなってから。

お前の腹はでかいぞ――せり上がり始めている。

罪の子を孕んでいるせいだ。

言ってみろ、どんなふうにして

その身を汚したのかを。

(5)

ああ、女主人よ、このようになったのはなぜだ、  
孕んだので腹がだんだんと膨らんでくるという理屈だろうが！  
マリア、言いなさい、この子の父親は誰なのか。

左六十七頁

言ってくれ、お願いだ——それもすぐにだ。

マリア 天の父です、そうなのです、この子の父親は天の父です。

他に父親はいません。

本当です、人間と間違ひなど犯していません。

そうなのですから、お願いです、お嘆きを和らげてください。

この子は神とあなたとの子です。

ヨセフ 神の子だと！ 嘘をついているのは確かだ。

神が娘を虚仮こけにするようなことは一度でもしたか！

しかも、あえてはっきりとっておくが、わしはそこまで行かなかつた、

たとえお前の寢室に近づくことがあつても。

しかし、これだけははっきりさせてもらう——マリア、これは誰の子だ？

マリア 神とあなたとの子だと申し上げております。

(6)

ヨセフ そうだ、そうだ、そのとおりなのだ。「観客に向かつて」お年寄りのみなさん、わしの言うことを良

く聞いてください。

それがどんな結婚でも、してはだめですぞ、

それも若い娘とは！ わしに同意してください——

年寄りには、例の疑いと、恐れと、ああいうお勤めがあるでしょうが！

ああ、なんたることか！ わしの名は汚れてしまった。

今ではもう、人は皆わしを軽蔑し、

「寝取られた年寄りよ、お前の弓は曲がった、今や新しくフランスふうにな」と言うかもしれない。

ああ、なんたることか！

女主人よ、なぜこのようなことをしてかしたのか。

こんな罪をお前が犯したせいだぞ――

わしはお前を捨て、お前から離れる、

それも永遠にだ。

(7)

マリア 悲しいかな、善き配偶者、なぜそのようなことをおっしゃるのですか。

ああ、なんということを！ 愛しい夫よ、お気持ちを直してください。

この子は人間ではなく、愛しいイエスなのですよ。

体は人間の血肉におおわれ、

イエスがあなたの妻から産まれるのです。

セフォル 確かに、あの天使は言っていました、

「三位一体の神の御子が、  
人間のために一人の人間となり、  
見捨てられた者たちを救われる」と。

(8)

ヨセフ 天使だと！ ああ、なんたることか、恥を知れ！

今の言葉で、罪に罪を重ねることになったのだ、

そのように天使のせいにするとは。

ああ、なんたることか、もうたくさんだ。

こんな悪さを始めたのは、どっかの男に決まってる。

きれいなおべを着た、派手な身なりをした奴で……、

お前はそいつに「天使」という名前を付けたのだ。

ああ、なんたることか、

そもそもこんな遊びをお前がしでかしたとは！

ああ、女主人よ、どんなことを考えての上の所業だ？

これで、すべての男は例の諺の意味に納得するだろう、

「多くの男が続げざまに弓をしごくが、

花嫁は他の男が手に入れる」という諺の。

マリア ああ、天の玉座におられる慈しみ深い神よ、

このような辛い目にあっている配偶者を慰めてください。

憐れみ深い神よ、夫の嘆きを和らげてください、

そんな大それた罪など犯していませんから。

(9)

ヨセフ ご覧ください、観客のみなさん、先程も申し上げましたね、

「年寄りのためにはならない、

妻を娶ったりするのは」と。

わしのためにならぬことが今やはっきりした――

ここに神に誓って言うが、

ご覧ください、マリアは子供を孕んでいます！

ああ、なんと！ なぜにこうなってしまったのか……。

司教さまに申し上げよう。

そうすれば、法律に照らして、

奴を石打ちの刑で殺してくれよう。

(10)

だめだ、だめだ、ああ、神よ、それだけはだめです、

そんな仕返しをわしにさせないでください、

わしのほうに、そうする理由がちゃんとあったとしてもです！

神よ、助けてください、こ奴については何も気づかなかった、

言葉でも行いでも、事の証になるような、

大罪に関わるようなものは一切合切！

それにもかかわらず、どうしたことか——

いかにあれが謙遜で柔和であったとしても、

男との関わりがなければ、

子を孕むことなどなかったはずだ。

(11)

わしの子だとは、どうしても信じられない。

あれが妻としての義務を果たさなかったとしても、

訴え出るよりは、独りで嘆きに嘆いたほうがいい。

そうだ、確かに、そうしたほうがいい、

国を永久に捨て、

あれとは二度と友連れとならぬほうがいい——

もし人がこのような大罪を知ったら、



きつとわしを咎めるに違いない。

だが、それでも、わしのほうが多くの奴らよりはいい——

そうだ、寝取られた奴らよりはいい。

さても悲しいかな、どこへ行ったらいいのか。

行くか行かぬか、どこへ行ったらいいのか、どうしても思いつかぬ——。

悲しみという奴は直ぐに来るが、

過ぎてしまふまでは長くかかるものだ。

ここに居ては慰めなどとんでもない。

妻よ、このわしにお前が悪さをしてかしたのは確かだ。

さても悲しいかな、これはお前の元からあまりにも長いこと離れていたせいだ。

ありとあらゆる男より、このようなわしに同情してくれ——

わしの悲しみを慰めてくれ人はいないのだから。

(12)

マリア この身に宿る神よ、

ご覧のとおり、夫は不快に思っています、

このような苦しい立場にいるわたしを目のあたりにして。

この身に何が起こったのか知らないから苦しんでおります——

それゆえ、心が晴れるように助けてやってください。

そうなれば、あなたのご意思を完全に理解することができましょう。

わたしは軽蔑されたままで、

あなたの子であることを内密しておいたほうがいいのです――

聖霊によって授かった子であることを

わたしの口から明らかにするよりは。

(13)

## 神

わたしの天使、さあ、地上に降りてゆきなさい、

ヨセフの元へゆきなさい。そして、伝えなさい、

わたしの意思がそのようになると。

マリアの元に留まり、共に住むようにヨセフに命じなさい。

なぜなら、他ならぬわたしの高貴なる子なのだ、

マリアが孕んでいるのは。

## 天使

栄光の全能なる神よ、

地上に下る用意ができています、

あなたのご意思がいずれのものであれ、

行きましよう、遠近にかかわらず。

(14)

ヨセフ、ヨセフ、鋭い声を上げてむせび泣いているな。  
妻の元から、なぜ出て来たのだ？

ヨセフ 身分の高い方よ、心ゆくまで泣かせてください。

あっちへ行ってください、わたしなど無視してください。

天使 むせび泣くなど、実にひどいことだ――

神にたいして、悪い行いをしているからだから。

妻のところに行つて、心からの気持ちを含めて、元気づけてあげなさい。

機嫌を直しなさい、考えを改めなさい――

お前の妻は真に汚れない乙女なのだから。

その乙女から神がお産まれになる、と言っているのだ、

それも、かつてそうであったように、今も汚れない乙女のままだ。

それは見捨てられた人間を救うためだ。

さあ、行って元気づけてやりなさい――このように、わたしは直接お前に向かって言っているのだ。

(15)

ヨセフ ああ、主よ、慈しみに溢れる神よ、

あなたの大きな慰めにたいして感謝します――

このような辛い時に、慈しみをお送りくださったからです。本当に、わしには判っていてしかるべきでした。

あんなに素晴らしい被造物が

罪を犯すはずなどない、ということをし！

なぜなら、あれは神の恵みに充ち満ちているからだ。

わしが悪いことをしてかしたことは充分判っています。

貧しい我が家まで歩いて戻って、

許しを乞おう——わしは誤解していた。

(16)

今や、この目で見るときが来たのだ、

人間を救うことになる子を目にする時が。

今や検証するべき時がきたのだ、

預言によって語られたとおりのことを。

高みにお座りになっておられる神に感謝を捧げよう、

心を尽くし、思いを尽くして。

あれとわしとを結びつくようにされたのは神のみ旨だ。

だから、マリアを妻に娶うようになされたのだ。

あなたの恵みに溢れた御子を

こんなにも身近に目にしながら、生涯を送れることに感謝します。

(17)

ああ、喜びで、体が震えに震えています。

ああ、なんといいことだ、今まで何が起こっていたのだ？

ああ、わしの優しい伴侶よ、慈しみを、慈しみをわしにくれ！

わしは間違ったことばかり言ってしまった。

今ここに誓う——これまで言ったすべてのことをわしは破棄してしまおう。

さあ、お前の可愛らしい両足に接吻させておくれ。

(18)

マリア いけません、わたしの両足などに、どうぞ手をかけないでください——

この唇に接吻してもいいのですよ。

さあ、わたしは喜んであなたを受け入れます。

ヨセフ ありがとうございます、わしの優しい妻よ、

ありがとうございます、わしの心、わしの愛、わしの命！

こんなごたごたは二度と起こさないぞ、

お前とわしの間では。

(19)

ああ、マリア、マリア、お前が健やかであるように！

胎内の果実が祝福されますように、

力の神の御子が。

ところで、憐れみに溢れる善き妻よ、

悪行の債務の支払いをわしにさせないでくれ——

その当然の権利がお前にはあるのだが……。

わしの間違いはこの目にも明らかだ。

どのような罪もお前が犯していないことが判った。

もしもお前が徳の高い人間でなかったなら、

神がお前の胎内に宿るはずはなかったのだ。

(20)

わしが間違いを犯したことを認めよう。

確かに、このわしは、少しもふさわしくなかった、

お前の夫として。

これ以降は心を改めよう。

お前自身の意思どおりに、

お前の手となり足となりして仕え、

お前の子であることも理解し、

善き愛情を込めて御子を拝もう。

それゆえ、さあ、言っておくれ、ためらわずに、

お前の懐胎の聖なる事柄についての一部始終を。

(21)

マリヤ あなたは、わたしに話をするように、心底からお命じになったのですね。

ガブリエルと呼ばれる天使がやって来て、

わたしに向かって優美に挨拶をすると、「アベ」と言われたのです。

そして、さらに告げられました、

わたしの体から神が産まれるだろう、

悪魔の力を打ち倒すために、と。

聖霊をとおして、わたしの胎内に——この身のことなので良く判りますが、

神が留まり、宿られるであろう、と。

(22)

ヨセフ さあ、言葉を口に出して神に感謝しよう、

マリヤよ、わしがそもそもお前と結婚したことに。

マリヤ 申し上げているとおり、これは神のなされた御業です。

さあ、主が祝福されますように祈りましょう、わたしのためにこのように整えられた方なのですから。  
 「ここに、「ヨセフの帰宅」が終わり、「マリヤのエリザベス訪問」が始まる。」

### 第十三演目 マリヤのエリザベス訪問

(1)

マリヤ ねえ、あなた、もっとも謙虚なお願いが一つだけあります。

従姉のエリザベスが子供を孕んでいることを聞きました。

よろしかったら、急いで行ってみようと思います。

もし慰めてあげられるのなら、わたしの喜びとなるでしょう。

ヨセフ なんと、エリザベスが子を孕んでいる、と言うのか！

それでは、夫のザカリアはさぞや喜んでいるだろう。

ここからは確かに遠い山岳地帯に住んでいる。

ユダという町で、良く知っている所だ。

ここからは五十二マイルあると思う。



そこに辿り着くまでには、くたくたに疲れ果ててしまいそうだ。

祝福された妻のマリアよ、善い意思を持って出掛けよう。

では、これから出掛けよう、神の名を唱えながら。

(2)

マリア 夫よ、あなたにとっては苦しいものであっても、ゆきましよう。

お願いです、この旅を急ぎましよう――

人に見られると恥ずかしいし、

特に、男の方たちを恐れるからです。

巡礼と手助けは急いにするべきものです。

体が痛めばそれだけ報酬も多いのです。

あなたの信仰を口に出してください、そうすればわたしも自分のを言います。

さあ、神がこの旅路を旨く終わらせてくださいますように。

ヨセフ アーメン、アーメン、そして、もっと多くのアーメン、と。

妻よ、ご覧、お前より前を、わしはこのようにしっかりした足取りで歩いているぞ！二人ハ舞台ヲ巡り歩

く。

(3)

観想 ご覧の皆さん、かのダビデ王がこの神殿において、

深い信仰を持つ二十四人の司祭を叙階されました。

この場所において——この後で、登場しますが、

その職務ゆえに、至高の聖職者と呼ばれる

一人の司祭の長がいて、統率しておられます。

その中に、ザカリアと呼ばれる老いた司祭がいます。

生涯を信仰に捧げた老いた女性を妻としています。

エリザベスと呼ばれ、子供を孕むことが一度もありませんでした。

(4)

そのザカリアが司式をした時、香を炊くと、

天使ガブリエルが現れ、

妻が懐胎するだろうと告げたのです。

あれこれを判断し、自分の至らなさと年齢とを考えると、ザカリアにはそんなことは信じられませんでした。すると、どうでしょう、唾になれとの神罰が下され、唇が閉ざされてしまったのです。

天使と二人で家に戻ってみると、確かに、妻は妊娠していました——

これが、我らが聖母のマリアにガブリエルが告げた、エリザベスの懐妊のことです。

そして、事実、すぐ後に、マリアはかの賢婦であるエリザベスを探し求めるのです。

そして、二人がどのように会うのか、

その経緯がここに始まります。

さても、われらの演目の始まりが旨くいくように祈って、  
わたしも口を閉じます。

(5)

ヨセフ ああ、ああ、妻よ、本当に疲れてしまった。

この場に座り込んで、このまま休んでしまおう……。

あっ、見てご覧、妻よ、あれはザカリアの家だ。

わしがエリザベスを呼んで、お前に顔を見せるようにしようかな？

マリア いいえ、旦那様、よろしければ、わたしの方が行きましょう。

さあ、祝福された三位一体の神がこの家にましますように！

ああ、従姉のエリザベス、優しい母よ、ご機嫌いかがですか。

おながが大きく膨らんだこと。ああ、わたしの神の恵みの深いこと！

(6)

エリザベス 直ぐに、あなたの聖なる挨拶が聞こえましたよ、

柔らかな乙女、神の母、マリア様。

聖霊があなたの吐く息によってわたしたちに吹き込まれました。

それゆえ、わたしの胎内の子は大いに喜び、

われらの神に向かって恭しく膝を付きます。

その神をあなたが胎内に育んでいることがわたしには本当だと判ります。

わたしは大きな声で叫びます、「聖霊に満たされた方、

あらゆる女の内で祝福されますように！」

(7)

また、あなたの胎内の果実もまた祝福されますように」と。

あなたはこれまで生を受けた被造物のなかで一番立派な乙女で、妻です。

どうしてなのでしょう、神の母がわたしなどのところへいらっしゃるとは！

誰一人として気付きもしない、あらゆる惨めな者の内でも惨めな、わたしのところなどへ。

そして、あなたは祝福されてしかるべきです、

神のみ言葉があなたのなかで実を結ぶとお考えになり、信じていらっしゃるのですから。

でも、このような祝福がどのようにしてもたらされたのか、

これからどのようなことになるのか、わたしには考えつかないし、口に出すこともできません。

(8)

マリヤ 従姉よ、神を讃えるために、ぜひ言っておかねばなりません——

わたしの小さな家で、座って神に向かって祈っている時です、

天使ガブリエルが来られ、わたしに向かって「アベ」と言いました。

わたしが同意しますと、神を身籠もりました——

完全な神であると同時に完全な人間という存在をです。

すると、天使はわたしに告げました、

あなたが受胎して六箇月経っている、と。

従姉よ、それゆえわたしが来たのです、あなたを慰めに来たのです。

(9)

エリザベス 従妹よ、ここにやって来られたことが祝福されますように！

わたしの懐妊の顛末をお話しましょう。

夫が香を炊く時間になると、天使が現れ、

わたしが妊娠するだろうと告げたのですが、夫はそんなことはありません。

それ以来、不信のせいで、夫はずうっと口が聞けません。

以上、わたしの懐妊について少しばかりお話しました。

(10)

マリア さあ、今ここに、次の聖歌を唱え始めましょう。

ワタシノ魂ハ主ヲ讃エ、ワタシノ靈ハ、ワタシノ救イ主デアル神ヲ喜ビ讃エマス。

エリザベス 聖霊も喜んでいることでしょう——神の御子があなたの胎内に入りました。

あなたの霊はあなたの神の救いを喜んでいます。

マリア 身分ノ低い、コノ主ノ端女ニモ目ヲ留メテクダサツタカラデス。今カラ後、

イツノ世ノ人モ、ワタシヲ幸イナ者ト言ウデシヨウ。

エリザベス なぜなら、神の端女の謙遜をご覧になり、

それがとても素晴らしいものであったので、すべての世代があなたに平和の祝福を願います。

マリア カアル方が、ワタシニ偉大ナコトヲナサイマシタ。ソノ御名ハ尊イ。

エリザベス 神は偉大な物を造られた、もっとも力強いがゆえに。

そして、確かに、神のお名前は聖であり、われらの内にあります。

マリア ソシテ、ソノ憐レミハ代々ニ限リナク主ヲ畏レル者ニ及ビマス。

エリザベス そうです、神の憐れみは、元の質から平和の質に変わりました。

神を畏れる者すべてのために、今や神は来られた。

マリア 主ハ、ソノ腕デカヲ振ルイ、思イ上ガル者ヲ打チ散ラス。

エリザベス 神の右腕にあるように貧しい者を造られた、

奢れる者を絶望に追いやり、かれらの気持ちだけを思いやられます。

マリア 権力アル者ヲ、ソノ座カラ引キ下ロシ、身分ノ低い者ヲ高く上ゲラレル。

エリザベス 奢れる者たちを高い座より神は下ろされる。

そして、謙遜する者たちを高みに、平和の座に付けます。

マリア 飢エタ人ヲ良イ物デ満タシ、富メル者ヲ空腹ノママ追イ返サレマス。

エリザベス 神はすべての貧しい者と困っている者を神の物で満たされます。

そして、神は富める者を無にまで落とされます。

マリア ソノ僕いすらえるヲ受ケ入レテ、憐レミヲ、オ忘レニナリマセン。

エリザベス イスラエルを神の御子ゆえに、神は受け入れてくださいます。

神は御子のためにしかるべぐ憐れみを考えておられます。

マリア ワタシタチノ先祖ニオッシャッタオリ、あぶらはむト、ソノ子孫ニ対シテ、トコシエニ。

エリザベス 神はわれらが先祖の人たちに内密に言われたように、

アブラハムとこの世のすべての子孫がそのようになります。

マリア 父ト子ト聖霊ニ栄光アレ。

エリザベス さあ、ここに、天の父を賛美しましょう、

御子にたいしても同じ賛美を！

そして、聖霊にも賛美を、忘れぬように。

マリア 初メニソウデアッタヨウニ、今モマタ、コレカラモ、代々ニ末代マデモ、

あーめん。

エリザベス 初めと同じように、そして、今も、また、永遠に。

そして、その時、この世において、すべての善き行いにおいて、そのようにありますように。

(11)

マリア このように、預言の雅歌を二人で唱えました。

天使の手によって天において書かれたものです。

永遠に歌われ、また同じように確かめるべきです、

たった今、二人の間で唱えたように、毎日、われらの夕べの祈りの時に。

(12)

ところで、従姉のエリザベス、この地であなたをお守りします。

今から三ヶ月の間、ここに留まりましょう、

子供が産まれ、洗濯をし、床を磨き、お掃除ができるまで。

わたしはできうるかぎり、あなたを慰めましょう。

エリザベス

ああ、神の母よ、ここにいるわたしたちに示してくれました、この地で惨めに暮らすわたしたちが、いかに謙遜でなくてはならないかを。

すべての者があなたを拜むに違いありません、

高貴な三位一体の玉座と幕屋である天と地のすべてが。

(13)

ヨセフ

ああ、ザカリア司祭、いかがですか、いかがですか――

誓うまでもなく、わしらは齢を取りました。

そんなに頭を振るのはなぜです、言葉が覚束ないからですか？

司祭さまは、なぜしゃべらないのですか？ わしたちに腹を立てているわけではないでしょうな。

エリザベス

そうではありませんよ、賢い父であるヨセフ。子が授かった事実を忌み嫌ったのです。



それで神の御遣いが夫をしゃべれなくしたのです。

それゆえに、二人して神に感謝を捧げましょう。

神の憐れみになう時に、きっと癒してくれるでしょう。

(14)

ヨセフ あなたの病については嘆きなさいますな。

いかなる逆境にあっても、神に感謝したほうがいい――

神はもっとも心から愛する者を

叱責し、その罪を悟らせるからです。

マリヤ、わしらは帰った方がいいな――

家からこんなに遠くまで来てしまった。

マリヤ 準備は整っています、旦那さま、さからいはしません、

わたしはあなたの忠告にしたがって行動するからです。

従姉よ、あなたの許しを得て、

わたしたちはもう家に向かう旅路をとらなくてはなりません。

あなたがたの目の前で、祈ります、

神の助けが大きく、あなたがたを回復させてくださるように。

(15)

エリザベス さあ、神がいとこのお二人を助け、

あれこれ口にしなくても、あなたがたのお気持ちをよく判ってくれますように。あなたがたを間近に見て、本当に慰められました。

それゆえ、わたしは悲しく思います――

わたしの友であり、わたしの親族のあなたがたが、

こんなにも早くわたしの元から去って行ってしまうことが、

しかし、神に祈ります、あなたがたを無事に導いてくれますように、

どのような場所にあなたがたが行くにしても。(ここで、マリアとエリザベスは別れる。そして、エリザベ

スはザカリアのところへ行く。)

(16)

善き夫、お願いです、元気に起き上がってください。

そして、いま直ぐに神殿にゆき、

わたしたちの出来うるかぎり神を拝み、

二人して感謝を捧げましょう。これがわたしの好機です、

今や時は近づきつつあります。

なぜなら、今や憐れみが来て、復讐は過ぎ去ったのですから。

人間のために、神が産まれるのです。

そして、永遠に続く恵みにわたしたちを連れていってください。

〔ここに、「マリアのエリザベス訪問」が終わり、「ヨセフとマリアの裁判」に続く。〕